

北陸圏・中部圏広域地方計画合同協議会
報告書(案)

平成27年11月

北陸圏・中部圏広域地方計画合同協議会

目 次

1. 北陸圏・中部圏の広域連携に係る 「北陸圏・中部圏広域地方計画合同協議会報告書」について	1
2. 環日本海・環太平洋に拓かれた一体的な圏域形成の高まり	1
3. 産業連携	3
4. 観光連携	5
5. 防災連携	7
6. 環境連携	9
7. フォローアップ体制	11
8. 今後の広域地方計画策定に係る作業方針	11

1. 北陸圏・中部圏の広域連携に係る

「北陸圏・中部圏広域地方計画合同協議会報告書」について

平成27年8月閣議決定の「新たな国土形成計画（全国計画）」では、都市・地域間や圏域間、また世界との対流促進、広域連携による国土形成の方向性が示された。その中で、北陸圏・中部圏は、交通基盤整備の進展により日本海から太平洋にわたり地域の一体感が強まりつつあり、観光や産業、物流、防災など圏域を超えたさらなる広域連携の必要性が示されたところである。

本合同報告書は、北陸圏・中部圏を結ぶ高速交通ネットワーク整備の進展などを踏まえた、今後の広域連携の方向性などについて示すものである。

2. 環日本海・環太平洋に拓かれた一体的な圏域形成の高まり

北陸圏・中部圏は、東海道新幹線や東名・名神高速道路、中央自動車道、整備が進む新東名・新名神高速道路や中部縦貫自動車道、北陸自動車道、北陸新幹線などが東西方向にそれぞれ基軸を成し、それらを南北方向に東海北陸自動車道や上信越自動車道などがラダー状に結び、空港、港湾と連携した高速交通ネットワークの整備が進展している。

両圏域では、これらの整備が進む高速交通ネットワークなどを活かした地域整備に取り組み、我が国経済を牽引する圏域として発展してきた。

そのような中で、2008年の中部圏と北陸圏を最短で結ぶ東海北陸自動車道の全線開通は、両圏域のつながりを一層強化し、産業や観光など中部国際空港や名古屋港、四日市港、伏木富山港などを海外とのゲートウェイに、北陸圏・中部圏が環日本海・環太平洋に拓かれた拠点性を高めつつある。

また、南海トラフ地震などの大規模自然災害に備えた、日本海・太平洋2面活用型の国土や、自然環境の保全・再生など、安全・安心で環境と共生した国土基盤の構築など、北陸圏・中部圏の広域連携に対する必要性が高まりつつある。

環日本海・環太平洋に拓かれた一体的な圏域形成の高まり

交通基盤整備の進展により強まりつつある北陸圏・中部圏の一体感

両圏は高速交通ネットワークなどを活かした地域整備に取り組み、産業や観光などの分野で我が国経済を牽引してきた
また、防災や自然環境の保全・再生など、安全・安心で環境と共生した国土基盤の構築のために北陸圏・中部圏の広域連携に対する必要性が高まりつつある

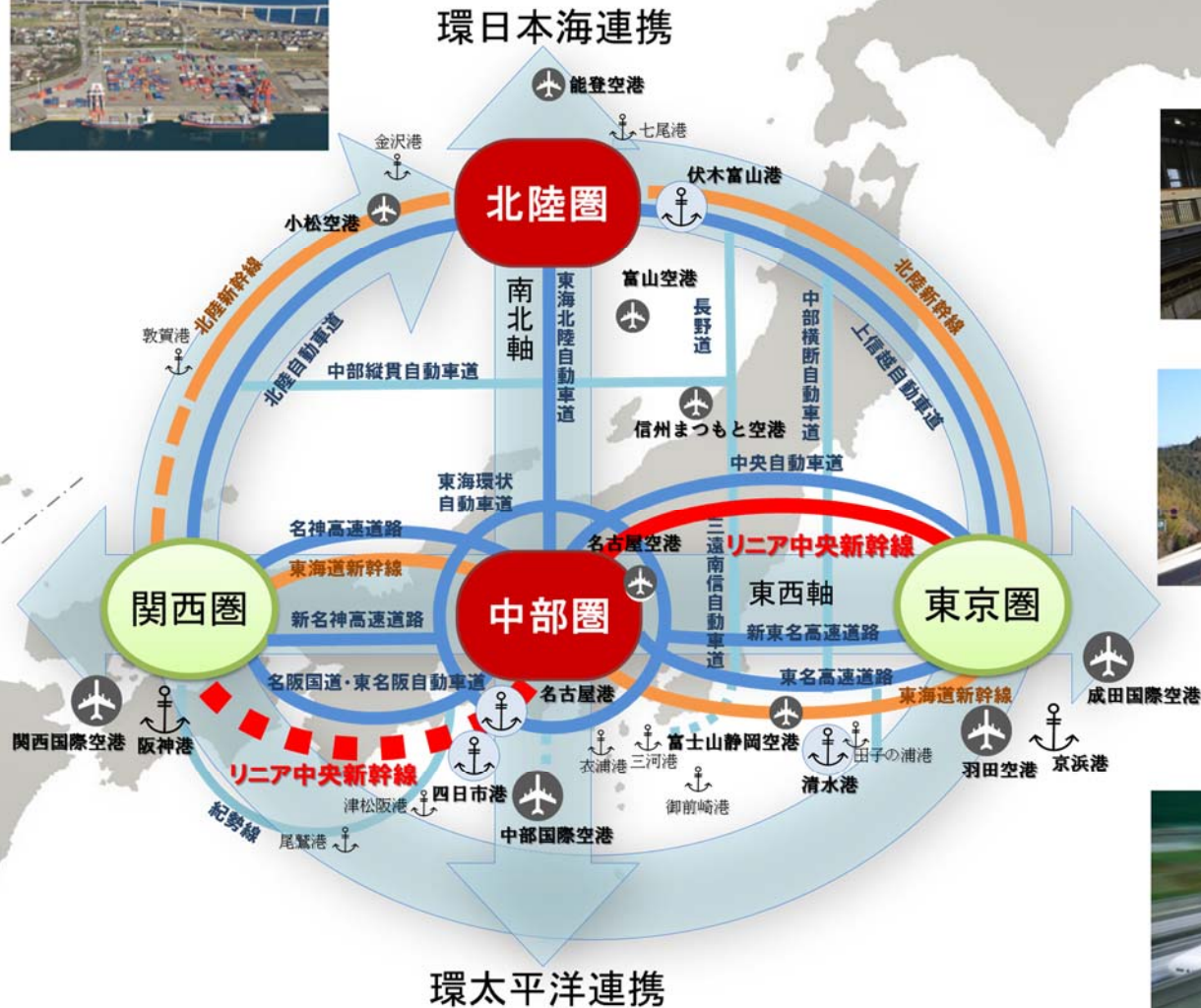
名古屋港



伏木富山港



中部国際空港



北陸新幹線



新東名高速道路



リニア中央新幹線



3. 産業連携

<現状>

次世代自動車をはじめ最先端の高度なものづくり産業が集積する中部圏と、高機能新素材産業やライフサイエンス産業などに特徴を有する北陸圏において、それぞれの特徴的な産業集積や強みを活かした広域的な産業連携の取組が始まっている。

中でも炭素繊維複合材分野では、産学官の連携により、中部圏と北陸圏が持つ人や情報（シーズやニーズ）の往来を活発化し、研究開発から生産・加工・組立までを行う世界に冠たる一大拠点・産業集積を形成する、東海・北陸連携コンポジットハイウェイ構想が進められており、成長産業として期待される次世代自動車産業や航空宇宙産業などにおいて、大きな取組成果が期待される。

<方向性> 環日本海・環太平洋に拓かれた我が国の一大産業拠点

北陸圏・中部圏のそれぞれの圏域が持つ産業特性や強みを活かし、太平洋から日本海に至る広域で多様な産業クラスターを形成し、ものづくりを支える高速交通ネットワークなどを活かして、シームレスな国際物流環境を創出し生産性向上に大きく貢献する。

東海・北陸連携コンポジットハイウェイ構想を基軸に北陸圏・中部圏の産産・産学連携の一層の推進を図るとともに、北陸圏の強みである医薬品・医療機器等のライフサイエンス産業と中部圏のものづくり産業との医工連携の促進を図ることで、次世代自動車産業や航空宇宙産業、ヘルスケア産業など我が国経済を牽引し成長エンジンの一翼を担う環日本海・環太平洋に拓かれた我が国の一大産業拠点を目指す。

一方、北陸圏・中部圏を発着し、東京圏・関西圏の国際空港を経由する国際航空貨物需要の中部国際空港・小松空港への取り込みを積極的に図り、国際航空貨物物流の効率化を図ることにより、陸送に係る時間・コスト短縮等を実現することで、両圏域の産業発展を支援する。

環日本海・環太平洋に拓かれた我が国の一大産業拠点

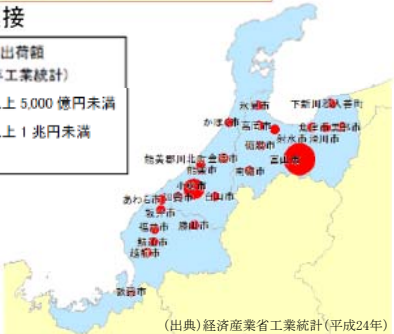
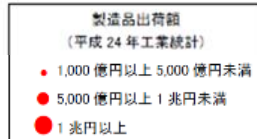
北陸圏・中部圏それぞれの産業特性・強みを活かし、我が国経済を牽引し成長エンジンの一翼を担う環太平洋・環日本海に拓かれた我が国の一大産業拠点を旨す。

広域で多様な産業クラスターが形成され、シームレスな国際物流環境が整備された環日本海・環太平洋に拓かれた一大産業拠点を形成

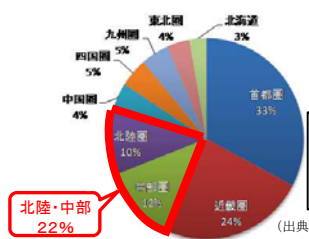
多様な産業が集積する北陸圏

- 製造品出荷額の多い都市が連節
- 多数のグローバルニッチトップ企業が立地

■ 製造品出荷額の多い都市の接続



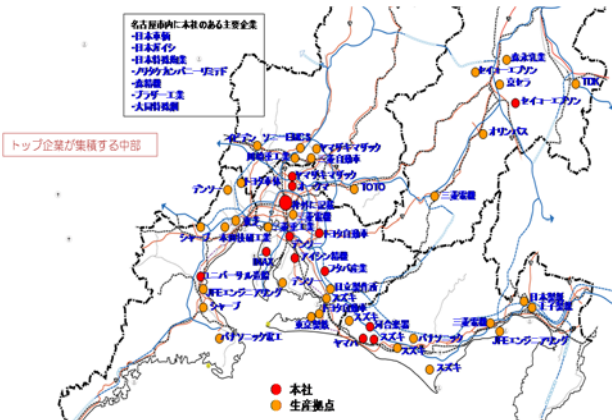
■ グローバルニッチトップ企業 100選に選ばれた企業の割合



「グローバルニッチトップ企業」とは、比較的小規模な分野に特化することにより、国際市場で競争優位を確保している超優良企業

日本経済を牽引する「ものづくり中部」

- 製造品出荷額は全国の約1/4
- 日本のトップ企業の本社・生産拠点が集積。
- 港湾(空港)、新東名・新名神・東海環状などに合わせた工場立地が進捗。



ユーラシア・ダイナミズムを取り込む 環日本海物流ネットワーク

炭素繊維複合素材



北陸ライフサイエンス産業クラスター

北陸圏のライフサイエンス産業と 中部圏のものづくり産業が融合した ヘルスケア産業クラスター形成

東海北陸自動車道・中部縦貫自動車 道等の整備に伴うシームレスな物流 ネットワーク構築

東海・北陸コンポジットハイウェイを基軸 に航空宇宙産業・次世代自動車産業等の 広域産業クラスター形成

三重県・岐阜県医療福祉 機器等開発連携事業

アジアNo1航空宇宙産業 クラスター形成特区

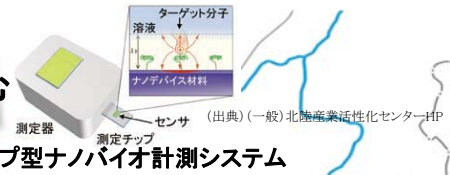
次世代自動車 開発・製造拠点



ファルマバレー プロジェクト



H27.11.11 MRJ初飛行



北米航路などグローバルにつなぐ 環太平洋物流ネットワーク

4. 観光連携

<現状>

中部北陸9県に跨がる昇龍道エリアでは、先進的な取組として2012年から中部9県の自治体、経済団体、観光関係団体等の産官が連携し、訪日外国人旅行者の増加を図るために「昇龍道プロジェクト」を立ち上げ、一貫した海外プロモーション及び観光力とホスピタリティ強化に取り組み、昇龍道エリアの外国人延べ宿泊者数は、2011年(H23)から2014年(H26)にかけて約2.5倍に増加するなど成果が現れている。

さらに、2015年6月には、国土交通大臣から広域観光周遊ルート形成計画の一つとして「昇龍道」が認定を受け、これまで以上に広域的に連携し、急増する訪日外国人旅行者に対する受入環境の整備や昇龍道エリアにおける消費拡大を図っていくことが求められている。

<方向性>北陸圏・中部圏に広がる広域観光交流圏

広域観光周遊ルート形成計画の一つである「昇龍道」において、北陸圏・中部圏の有する自然や歴史、文化、産業、食等の多種多様な観光資源を活かした複数の重点ルートを設定し、テーマ性・ストーリー性のある広域観光ルートの形成を積極的に推進し、昇龍道エリアの更なる魅力向上を図る。

また、エリア内の空港、主要ターミナル駅・バス停、道路案内標識、主要観光施設、宿泊施設、飲食店などにおいて、無料公衆無線LANの整備や多言語対応のわかりやすい案内表示による統一性・連続性の確保を進めるとともに、複数交通機関が連携した周遊きっぷの設定など、訪日外国人旅行者の受入環境水準の向上を図る。

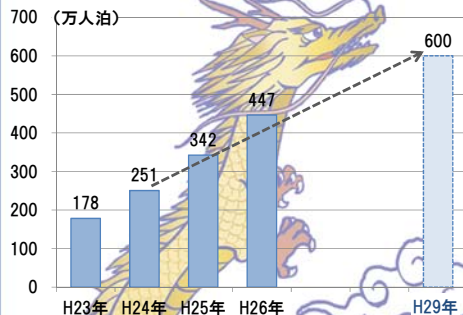
さらに、海外の市場別旅行形態やターゲットなどの分析を進め、効果的なプロモーションを展開するとともに、消費税免税店舗数の増加を促進し、昇龍道エリアにおける訪日外国人の消費拡大を図る。

北陸圏・中部圏に広がる広域観光交流圏

北陸圏・中部圏では、産官が連携した昇龍道プロジェクトに取り組み、外国人宿泊者数が2.5倍に増加(H23→H26)
 今後は昇龍道プロジェクトの一層の推進を図るとともに、リニア中央新幹線や北陸新幹線などの高速交通ネットワークを活かし、地域資源をストーリー性やテーマ性を持った重層的なネットワークで繋ぐことで、北陸圏・中部圏に広がる広域周遊観光交流圏を形成する

■新たな広域観光周遊ルート形成

＞昇龍道プロジェクト(外国人宿泊者数の伸展)



＞昇龍道・多様なルート設定

山岳、サムライ、ものづくりなどをテーマとした広域観光周遊ルート

【地域資源、観光ルート(例)】

- : 広域観光拠点地区
- : 主要広域観光ルート
- (出典:「昇龍道」形成計画(H27.6.12国土交通大臣認定))
- : 将来の高速交通ネットワークの拡充を活かした広域観光ルートの例



サミット開催



丸岡城 **兼六園**

出典: 福井県観光協会HP

金箔工芸 **輪島の朝市**

出典: 金沢市HP 出典: 石川県観光連盟

世界遺産 白川郷

高山祭

上高地 **飛騨里山サイクリング**

グリーンツーリズム

出典: 飛騨里山サイクリング公式HP

関越治伝承 **徳山ダム**

インフラツーリズム

出典: 関市観光協会HP

立山・黒部 **飛騨里山サイクリング公式HP**

ウィンタースポーツ

スポーツツーリズム

丸山千枚田

東尋坊 **御嶽山高地トレーニング**

出典: 福井県観光連盟

養老公園

世界遺産 蘆山反射炉

世界遺産 富士山

伊豆ジオパーク

おもてなし武将隊

武将観光

出典: 名古屋おもてなし武将隊HP

産業観光

四日市港ナイトクルーズ

出典: トヨタ博物館HP

楽器博物館

出典: 静岡県観光協会

クルーズ観光で賑わう清水港

寄港回数4→14(2011→2014)大幅増

富士山ツアーや買い物も満喫

出典: 2015.10.3読売新聞

「中国客2000人、クルーズ船が清水港に入港」

岡崎城

出典: 岡崎城HP

地歌舞伎 **塩の道 信州街道**

5. 防災連携

<現状>

東日本大震災では、国土の強靱性を確保する上でネットワークの多重性・代替性の確保を図りつつ、日本海・太平洋両面を活用することの重要性が再認識され、南海トラフ地震に備えた、北陸圏・中部圏が連携した日本海・太平洋2面活用型国土形成が求められる。

また、切迫する首都直下地震に備えて、首都圏機能をバックアップする強靱な国土を形成するためにも、北陸圏・中部圏の広域連携による北陸圏・中部圏の防災力強化が期待される。

<方向性>日本海・太平洋2面活用型の安全安心な国土

切迫する南海トラフ地震や首都直下地震などに備え、北陸圏・中部圏が東西・南北に二重・三重に多重性・代替性を確保した広域ネットワークや広域連携支援体制を構築・強化することで、北陸圏・中部圏が相互にバックアップを図る日本海・太平洋2面活用型の強靱な国土を構築する。

また、中部圏・北陸圏が防災力を強化することで、首都直下型地震が懸念される首都圏のバックアップ機能を高め、国土レベルでの強靱な北陸圏・中部圏を構築する。

特に、有事における迅速な対応は、平時からの連携があってこそ可能になることから、北陸圏、中部圏で国際貨物を共同輸送するための取り組みを進める等、平時からの人的・物的交流・連携の強化を推進する。

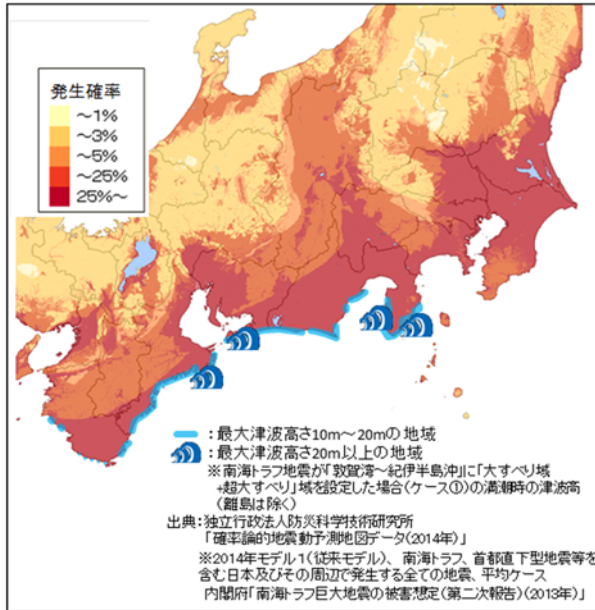
さらに、地域連携BCPを促進することで、企業単独では限界がある防災力の強化や事業継続力の向上を図り、有事においてもサプライチェーンが途絶することなく、事業を継続することができる強靱な生産体制の構築を図る。

日本海・太平洋2面活用型の安全安心な国土

南海トラフ地震などに備え、両圏が代替性を確保した広域ネットワークや広域連携支援体制を構築・強化することで、日本海・太平洋2面活用型の強靱な国土を構築する
両圏が防災力を強化することで、首都直下型地震が懸念される首都圏のバックアップ機能を高め、国土レベルでの強靱な圏域を構築する

■大規模災害に直面する国土

(2014年から30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率の分布)



■日本海・太平洋2面活用型国土の形成



■TEC-FORCE活動状況

(平成26年8月豪雨災害(広島県))



TEC-FORCE、消防、警察、自衛隊との合同現地調査

■南海トラフ地震に備えた「広域連携防災訓練」



自衛隊によるTEC-FORCEの輸送訓練

■人命救助のための

救援・救護ルート確保に向けたステップ
(中部版くしの歯作戦)



■首都直下地震及び南海トラフ地震に対応した代替輸送訓練 (北陸地方整備局・北陸信越運輸局)



グループ討議状況



訓練状況

6. 環境連携

<現状>

北陸圏・中部圏は、日本の屋根ともいわれ、太平洋・日本海を分ける3,000m超の中部山岳などが中央にそびえ、そこを分水嶺に太平洋、日本海に流れ込む地形を形成している。

温暖で日照時間の長い太平洋沿岸域、全域が豪雪地帯で降積雪量が多い日本海沿岸域と、自然環境は明確な違いがあるが、両圏域に跨がる水源域である山岳部は、ライチョウをはじめ貴重な野生動植物が生息・生育し、豊富な水資源がもたらす水循環を維持してきたが、農林業の衰退など産業構造の変化による森林の荒廃、都市域の拡大などにより、その健全性が損なわれつつあるなど共通な課題を有しており、双方が連携を持った山岳部における自然環境の保全への取組が一層求められている。

<方向性> 多様で豊かな生態系や自然環境と共生した国土

北陸圏から中部圏に跨がる中部山岳地域や白山地域などにおいて、ライチョウや高山植物など希少な野生動植物や白川郷・五箇山の合掌づくり集落などの優れた文化的・自然的景観など、両圏域に跨がる山岳地域においてこれまで育まれてきた豊かな生物多様性や森林生態系を保全・再生する取組を強化し、環境と共生した北陸圏・中部圏を構築する。

多様で豊かな生態系や自然環境と共生した国土

北陸圏・中部圏に跨がる中部山岳地域で育まれてきた生物多様性・森林生態系を保全・再生し、環境と共生した北陸・中部圏を構築する

両圏域に跨がる中部山岳地域における希少な野生動植物や優れた文化的・自然的景観の保全・再生に係る広域的な取組を一層推進する。



環白山保護利用
管理協会

NPOドングリの会

**ツキノワグマ
広域保護管理**
※白山・奥美濃管理ユニット

立山連峰や北アルプスに
生息するライチョウ



【出典】「第一期ライチョウ
保護増殖事業実施計画」
(環境省長野自然環境事
務所)

**ライチョウの
保護増殖**

木曾三川流域
自治体サミット

揖斐川水源地
ビジョン

長良川環境
レンジャー協会

かしも・白川
流域連合協議会

**国立公園をはじめとする山岳地帯における
高山植物や希少な野生動植物の保護**



ククルマユリ(立山)



ニリンソウ(上高地)



立山



乗鞍岳

保護増殖事業を行っている種

●中部地方環境事務所では、特に保
全が必要な希少種3種の保護増殖
事業に取り組む

アベサンショウウオ



石川県・福井県・兵庫
県・京都府の一部地域
に生息

ヤシヤゲンゴロウ



福井県・岐阜県境の
夜叉池のみに生息

イタセンパラ



濃尾平野・富山平野・
大阪平野の一部地域に
生息

(出典) 中部環境事務所HP

7. フォローアップ体制

北陸圏・中部圏の連携の実現に向け、フォローアップ体制を確立する。
体制は、北陸・中部圏広域地方計画合同協議会設置要綱第2に基づく、「幹事会」及び「ワーキンググループ会議」等を活用し実施する。

8. 今後の広域地方計画策定に係る作業方針

合同協議会での議論及び合同報告書の趣旨を踏まえ、平成27年度末を目標に北陸圏並びに中部圏の各広域地方計画のとりまとめを進めていく。